

北陸石仏の会々報

復活した地蔵祭り

滝本 やすし

私の自宅から数百メートルほどの所に、小将町地蔵橋子安地蔵尊の小堂が建てられている。石川県金沢市小将町にある金沢市立小将町中学校の裏手の十字路の角である。小将町地蔵橋子安地蔵尊は金沢四十八地蔵尊の第二十九番であり、堂の前には「わたすべきかづもかぎらぬはしばいらいかにたてけるちかひなるらん」の御詠歌が刻まれた石標が建てられている。いつもきれいに掃除されているが、堂の扉は常に鍵がかけられ、格子の隙間からぼんやりと子供を抱いた地蔵尊が拝める。

平成二十八年八月六日の夕方、途絶えていた地蔵祭りが十数年ぶりに行われた。町内の方々が持ち寄った果物や菓子などが供えられ、小将町中学校教諭の垣田さんによって読経が行われた。普段は暗い堂の中の地蔵尊が、この日はロウソクの明かりに照らしだされた。赤ちゃんを抱いた若い夫婦からは「子供の頃に親に連れられて来た、懐かしい。」との声が聞かれた。地蔵様もやさしく赤ちゃんを抱いている。

町内の方々と垣田さんの情熱によって復活した地蔵祭り、ぜひ末永く続けていただきたいものである。



第51号
平成29年4月10日発行
編集と発行
北陸石仏の会
(日本石仏協会北陸支部)
代表 平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田
1770 尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
(年会費 3000円)

- ・復活した地蔵祭り
- ・「妙見」刻字一石五輪塔
- ・五劫思惟の法蔵菩薩
- ・第53回例会報告
- ・旅先で見かけた石仏
- ・第54回例会案内

富山市森田(林崎)曹洞宗瑞泉山法眼寺の 「妙見」刻字一石五輪塔

平井 一雄

一、北辰菩薩と北辰妙見菩薩

中国では古来、北斗七星は天帝の乗り物で、人々の生死禍福を支配するとされた。北斗に祈れば、幸せて長生きできると信じられた。北極星を神格化した道教の神を、北辰という。これが仏教と習合して、北辰菩薩とよばれた。「一切経」の中に、「北辰菩薩は、諸国土を護り、作り為すところ、はなはだ奇特であるので、名付けて『妙見』』とあり、敵を退け国土を守る功德をもつとされた。

二、法眼寺の妙見一石五輪塔

森田法眼寺(旧林崎瑞泉寺跡)の境内に、多くの石仏石塔が残っている。その中に、「妙見」と刻まれた石塔があつて、当地内に広まっていた「妙見信仰」を物語っている。なお、天台密教では国家泰平を祈る秘法の、「尊星王法」の本尊として尊星王像をまつるが、これを別名「妙見」という。諸星の王である北極星を、神格化した尊像である。

三、林崎瑞泉寺と瑞泉山法眼寺

越中における曹洞宗は、能登総持寺二世峨山紹碩を中心としたその法弟による活躍によつて発展した。その一人に天叟祖寅がある。天叟祖寅の門派は、神保氏の外護をうけて射水・婦負郡を中心に教線を弘めた。天叟祖寅が、林崎に瑞泉寺を開いたのは文安二年(一四四五)である。当時、林崎地方には神保長誠、慶宗系統の勢力が進出して、婦負郡となつており、東方の勢力との境界をなしていた。そのため、先ず林崎の地にいた神保氏の、前線拠地としての寺院創立の必要があつた。曹洞宗法眼山瑞泉寺は、能登国鳳至郡門前村大山本総持寺末で(開山瑞泉寺殿存中忠公大居士文明八年没)、神保氏より山林田園の寄附をうけていたが、永禄年間(一五五八―一六九)兵火にかかり、名

目のみの草庵になっていた。その後、花崎村へ移り、活翁和尚が入った。天保六年(一八三五)、活翁の再興志願によつてここに寺地を得た。明治三年の合寺令で光厳寺へ合併、現在、富山市安養坊に独立し、高岡市雲照寺の金山氏が住職を兼務している。

林崎瑞泉寺の移転跡に、瑞泉山法眼寺がある。由緒によると、天保六年、瑞泉寺歴代の墓守坊として一草庵があつたが、天保八年に至つて、福沢徳林寺十三世祖関和尚の発願により、高岡広乾寺十一世国和尚の徒弟吟竜を迎えて、徳林寺支院法眼庵を創立したという。墓地は、現法眼寺の西方二〇〇メートルあたりにあつて、土塁状の盛り土に、宝篋印塔残欠、五輪塔、中世如来形石仏、板碑などを残していたが、現在すべて法眼寺境内に移して整備した。中でも「妙見」銘の一石五輪塔は珍しい。



真宗王国富山に根付いた石仏 五劫思惟の法蔵菩薩

尾田 武雄

富山県東部にも石仏が多く、特徴的なのは五劫思惟の法蔵菩薩の石仏が多々見受けられることである。また弥陀三尊、七高僧の石仏も見受けられ、真宗門徒の多様な信仰が垣間見える事が出来る。富山県全体では石仏が野に置き信仰されるのが、おおよそ江戸時代末期から明治期全般にかけてである。この時期、庶民が真宗に強く引き付けられたのである。

県東部でも富山藩は明治三年閏十月二十七日に、領内から寺院を一派一寺に改めて、直ぐに合寺せよという「合寺令」が発せられた。翌日に仏具や家具を取り払い指定の寺院に合寺させ、翌々日には役人が検分に向くという厳しいものであった。これに対しては強い反対する門信徒が多くあった。

この地方は、西部に反し浄土真宗本願寺派の勢力圏内である。また「越中学園」といわれるように学僧が多く輩出している地でもある。宇奈月善巧寺僧鎔は本願寺派空華蘆を自坊で私塾を開き、門弟三〇〇〇人に及んだとされている。これは僧ばかりではなく、庶民にもその影響があったのであろう。それは石仏を見ても明らかである。五劫思惟の法蔵菩薩の分布は、東部に立山町や富山市の旧大山町周辺の濃密に存在している。これは「明治中期から後期にかけて、廃仏毀釈や合寺問題で抑圧されたエネルギーが、爆発的に動いた時期といえるだろう。そしてこのエネルギーを支えた講社は、近代化を目指す教団再編成の中に組み入れられていったのである。(富山別院開創百周年記念出版編纂委員会編『越中念仏者の歩み』昭和五十九年刊) 明治四十四年宗祖聖人六百五十回大遠忌が厳修される。この時期真宗王国の名にふさわしい富山の講の最盛期であったかもしれない。

石仏は庶民の所産であり、そのモデルである木像がどこかにあるはずであると、ながく疑問に思っていた。それが杉崎貴英帝塚山大学准教授や広島県出身のドキュメンタリー映像監督青原さとし氏のご教示で、多くのことが

解できた。真宗の盛んな安芸(広島県)に木像が四体も報告を得て、多くのことが確認することができた。



廿日市市 蓮教寺



広島市佐伯区五日市 品正寺



安芸高田市 圓光寺



広島市西区 光西寺

第53回例会報告 春江町と坂井町の石仏巡り

池田 紀子

九月二十五日(日) 参加者十二名がまず訪ねたのは「従是親鸞聖人御旧蹟道」と刻まれた石柱のある黄楊の堂「春江町寄安」で、ここには石堂に納められた親鸞聖人の石像があります。またその石堂の横にある山王神社の石祠の中には山王権現(大山昨神、大物主神、桃を持つ猿)が奥壁に浮き彫りにされており興味深く拝観してきました。

住吉神社「春江町寄安」にある鳥居の額束には「住吉大明神、毘沙門天」と刻まれており、本殿の横にある石祠の奥壁には聖観音と毘沙門天の立像が彫られています。

諏訪神社「春江町正蓮花」では狛犬三体が神像を守っている石祠を拝観したあと、番外として福井市下森田新町にある大岩山不動院を訪ねました。前住職が富山県にある通称「大岩不動」(日石寺)を厚く信仰していたことにより、この地へ勧請させて頂いたと、息子さんである現住職が話をされました。そのあと、笏谷石の大岩不動明王と木像ではありましたが制多迦童子と矜羯羅童子を拝観してきました。



再び春江町に戻り二基の大きな胎藏界大日種子板碑のある住吉神社「春江町高江」へ。記念銘は「正慶元年壬申(一三三二)十月」と「応永巳卯年(一三九九)九月十六日」とありかなり古いです。

昼食後はまず春江町西長田にある薬師堂を訪ねました。ここには大きな石像薬師如来が納められており現在も厚く信仰されている様子がうかがえました。薬師堂の横には地藏や石柱が十基ほど並び、その中の一基の廻国塔には「安永四年(一七七五)」の銘があります。

薬師堂から二百メートルほど離れたところに長田神社「春江町西長田」があります。本殿の横には双体神像や板碑などが並び、その中にある石祠の一つには渡海文殊三尊(文殊菩薩、善財童子、優填王)が奥壁に彫られ、日月の小さな窓から何とか拝観することができました。

日吉神社「坂井町徳分田」で二基の石祠の聖観音立像と菅原道真の丸彫りの座像を拝観したあと、松原神社「坂井町上兵庫」へ。ここにはコンクリートブロック製の堂内に十基ほどの石仏や石神が納められていましたが、窓ガラス越しにしか見ることができずとても残念でした。

八幡宮「坂井町上兵庫」の本殿は「八」の字の窓がある石祠で、奥壁内面には武将形八幡神立像が彫られています。本殿の右横には秋葉権現立像が納められている石祠がありやつとのことで写真に撮ることができました。敷地内には地藏堂もありましたが、扉の上にはなまずの絵の額がかけられており不思議な感じがしました。

白山神社「坂井町清永」にある石祠では武将形の八幡神立像と雨宝童子立像を拝観することができました。またここには石造九重塔(天文十八年(一五四九)があり、これは欠損している多重塔が多い中で損傷も少なく坂井市最古の記念銘を持つ塔となっています。

氷川神社「坂井町高柳」では石板に牛に乗った神像が美しい姿で彫られており、祭神の氷川大明神と考えられています。

八幡神社「坂井町上関」の石祠では六字明王立像を拝観。いかめしい二体の狛犬が六字明王を守るかのようにデンと座っていました。



春江町正蓮花諏訪神社にて記念撮影

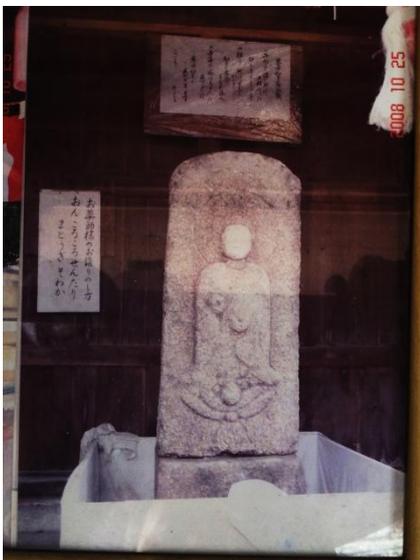
最後は坂井町下関にある春日神社へ。本殿の横にある石祠では「弘治三年（一五五七）」が刻まれている不動明王立像、観音座像、雨宝童子立像の浮き彫りの姿を拝観することができました。今回もたくさんさんの石仏に出会えてとても楽しかったです。また訪ねたところがほとんど神社だったこともあり様々な狛犬たちにも出会うことができました。中でも最後に見た灯籠の上の小さな狛犬はとても印象的でした。ありがとうございました。

旅先で見かけた石仏 田中泥薬師「岐阜県瑞浪市」

滝本 やすし

岐阜県瑞浪市に宿泊した際に、ホテルのすぐ近くの路傍に「田中泥薬師」という標柱を見かけた。泥薬師とはいったい何なのだろうかと車を止めた。堂の手前に「美濃瑞浪三十三霊場 第二十一番札所」の標柱が建てられている。そして「田中薬師如来由緒」と「お参りのしかた・祈願供養祭について」の案内板も建てられている。

由緒やお参りの手順については省略するが、自分の病を治してほしいところと（薬師様の）同じ部分に泥を塗り、病気の平癒を祈願するのだそうである。堂内には天井まで届いた大きな泥の塊が立っていた。定期的に泥が洗い流され、また初めから泥が塗られていくそうである。堂内の壁面に、泥が洗い流された石造薬師如来立像の写真が掲げられている。写真を見るとごく普通の石仏であるが、強い信仰心によって大切にされているのであろう。



泥が洗い流された薬師如来



天井まで泥が塗られた薬師如来

北陸石仏の会 第54回例会

—金沢市のちょっと珍しい石仏—

平成29年5月21日(日)

参加費：5000円（バス・資料代）

集合場所：①大沢野文化会館……………6時40分

②JR砺波駅南口……………7時20分

③JR金沢駅西口……………8時00分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成29年5月12日(金)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定

- ◎此花町 安江八幡宮／日本武尊
- ◎鶯町 曹洞宗宗龍寺／「北辰星」
- ◎東山2丁目 日蓮宗三宝寺／「二十三夜大月天子」
- ◎東山2丁目 臨濟宗妙心寺派普明院／毘俱胝菩薩
- ◎東山1丁目 高野山真言宗観音院／百度石、稲荷神
- ◎常盤町 日蓮宗少玄寺／七面大明神
- ◎朝日町3丁目 義堅院(青雲寺)／百観音巡拝塔、「熊野三社大権現」
- ◎天神町1丁目 椿原天満宮／逆さ狛犬、宝塔型灯籠
- ◎宝町 曹洞宗宝円寺／訶梨帝母
- ◎本多町3丁目 曹洞宗長谷院跡／白山妙理権現
- ◎野町2丁目 高野山真言宗真長寺／水神、不動三十六童子
- ◎専光寺町 観音堂／三十三体観音
- ◎上安原町 路傍／親鸞

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



「二十三夜大月天子」



稲荷神



七面大明神



白山妙理権現

平成29年度の会費を、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です